

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 キャンディサーカス		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 1日 ～ 令和7年 2月 20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 20日 ～ 令和7年 3月 15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 17日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・生活空間の工夫として子どもたちの動線がわかりやすく段差がないので移動は安心。	・子どもたちが作った季節ごとの作品を飾り子どもたちに自分も作品が飾ってあることを喜んでいる。 ・おもちゃの消毒、環境整備をし清潔を保っている。 ・避難経路を妨げず、いざという時の動線を意識している	・安心して安全に過ごせる空間を作ること心にかけている。 ・部屋の装飾や玩具が刺激にならない程度に楽しい空間を提供できるよう工夫している。
2	・活動プログラムをケース会議で話し合い、固定化しないようにしている。	・職員間で活動内容を共有し、毎日のあそびや療育の中で様々な素材に触れることが出来るよう設定している	・新しいことに挑戦したり伝承遊びなどを取り入れ楽しく過ごせるよう工夫する。
3	・保護者連携にICTを活用し、利便性高く家庭との連携を図れるようにしている。	・毎日の生活の中で不安なこと、心配なこと、子育ての悩みを聞き取りアドバイスしている。 ・アプリを利用し、保護者とのやり取りが潤滑に行われるよう配慮している。	・面談の日時を確保し、モニターで子どもの様子を見ながら情報を共有している。 ・連絡帳に支援内容の写真を添付することで、より具体的な活動の様子を伝えている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・ヒヤリハット事例についての事例検討会が出来ていない	・子どもたちの支援の他、業務日誌や連絡帳の記入に時間がとられてしまっている	・支援中に起きる「危ない」を職員で共有し、ことが起きる前の動きなどを話し合う機会を設ける必要あり
2	・保護者交流の機会をどうするべきか検討していく必要がある	・保護者交流の場を設けるにあたり、人材不足を感じている。	・保護者のニーズに寄り添う交流会として行けるよう保護者からの意見を機会を創出する。
3	・制度についてのインプット及びアウトプット、情報共有する時間が取れていない。	・情報共有する時間が取れない ・日々の業務量が多い	・必要書類の見直しやICTの活用で業務効率上がるよう工夫する